

序

本書は同じく羊土社からすでに発刊されている「画像診断に絶対強くなるワンポイントレッスン」、「MRIに絶対強くなる撮像法の基本のキホンQ & A」、「画像診断に絶対強くなるワンポイントレッスン2」に次ぐシリーズ第4弾の書籍として発刊されたものである。既刊の3冊のなかでは研修医、若手放射線科医、指導医らの会話形式スタイルのものもあったが、一方で読者諸氏のなかから「長々と会話で進めるのでなく、もっとポイントだけをスパッとわかりやすく解説してほしい」といった声も聞かれた。今回はそのようなご要望にお答えすべく、ポイントだけを「ツボ」という形で「スパッとわかりやすく」記載させていただいた。実際の内容としては、私がこれまで30数年間の画像診断医生活で培ってきたさまざまな知識やノウハウを、ツボという形で纏めることとした。そのような経緯から内容が多岐にわたる広い範囲をカバーした書籍になったことをお許しいただきたい。また上記の既刊3冊のなかで取り扱った内容も、非常に重要と思われる部分は再度本書でもとり上げた。

特にPart3の骨関節領域に関しては、この領域の専門家である東條慎次郎先生にもご協力いただき、今回は正常変異にfocusして執筆させていただいた。正常変異に関しては、画像診断医や整形外科医のみが知っておけばよいというのではなく、例えば消化器の診療で腹部単純X線写真を読影するとき、あるいは呼吸器や循環器の診療で胸部X線写真を読影するときに、たまたま骨盤骨や胸郭の正常変異に遭遇することがある。そのようなときに、「骨折が疑われるので精査をしましょう」などと説明してしまったら、たとえどんな名医であったとしても患者さんとの信頼関係を損なうことになりかねない。すべての臨床医が「転ばぬ先の杖」として知っておく必要があるのだ。その正常変異の画像に関しては、著者らの施設のみですべての掲載画像を準備することは困難なため、今回はイラストという形で統一させていただいた。実際の症例画像は例えば「ischiopubic synchondrosis」のように正常変異の英語名をインターネットなどで画像検索していただくと、世界中からwebに掲載

された画像をいくらでも閲覧できるので、本書のイラストを参考にしながら各自でご覧いただければ幸いです。

最後に本書の企画段階から発刊まで誠心誠意取り組んでいただいた羊土社編集部
の保坂早苗氏，中田志保子氏はじめ編集部スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

2018年3月吉日

著者を代表して
扇 和之